

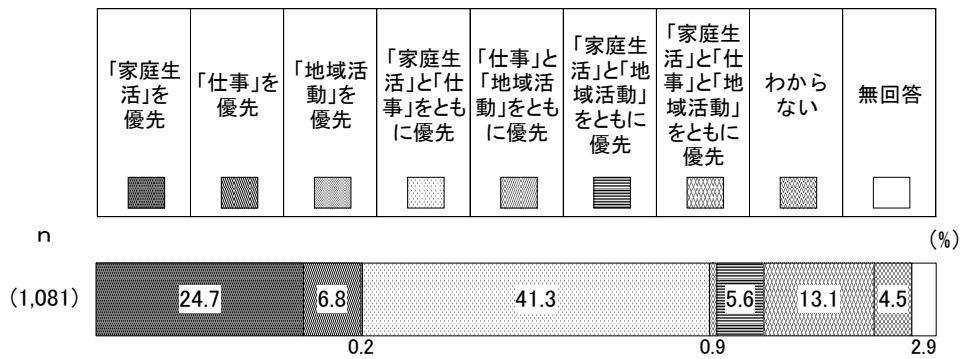
## 6. ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）について

### (1) 「家庭生活」、「仕事」、「地域活動」の希望の優先度

◇ 「『家庭生活』と『仕事』をともに優先」が41.3%

問 15. 生活の中で、「家庭生活」、「仕事」、「地域活動」の優先度について、あなたの希望に最も近いものを選んでください。（1つだけに○）

図 6-1

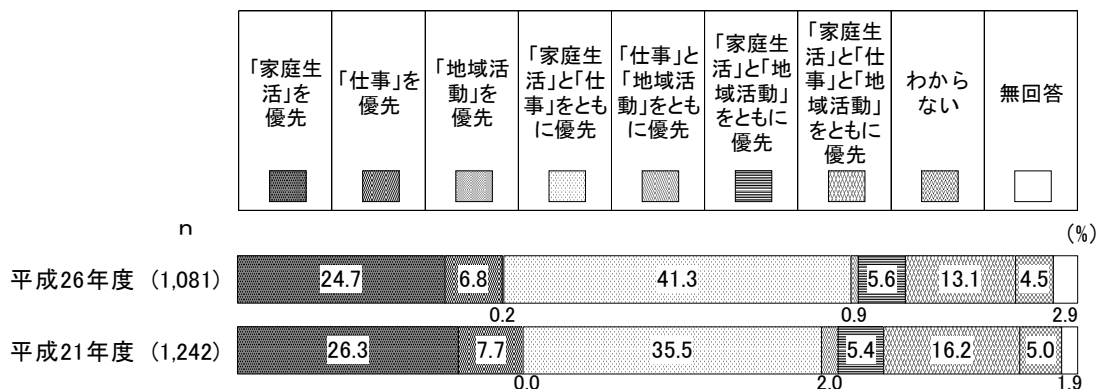


「家庭生活」、「仕事」、「地域活動」の希望の優先度を聞いたところ、「『家庭生活』と『仕事』をともに優先」が41.3%で最も高く、次いで、「『家庭生活』を優先」（24.7%）、「『家庭生活』と『仕事』と『地域活動』をともに優先」（13.1%）、「『仕事』を優先」（6.8%）などの順となっている。

(図 6-1)

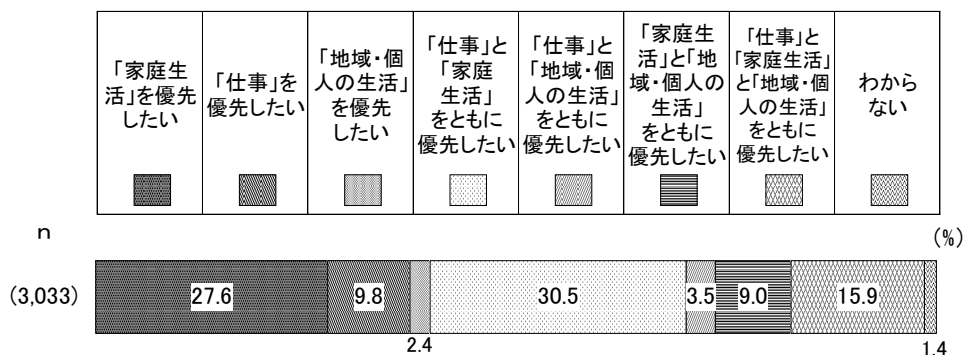
経年比較をみると、「家庭生活」と「仕事」とともに優先」は平成 21 年度調査より 5.8 ポイント増加、「家庭生活」と「仕事」と「地域活動」とともに優先」は平成 21 年度調査より 3.1 ポイント減少している。(図 6-2)

図 6-2 「家庭生活」、「仕事」、「地域活動」の希望の優先度（経年比較）



内閣府調査との比較は、選択肢が異なるため内閣府調査の結果を参考までに図示する。(図 6-3)

図 6-3 「家庭生活」、「仕事」、「地域活動」の希望の優先度（内閣府調査との比較）

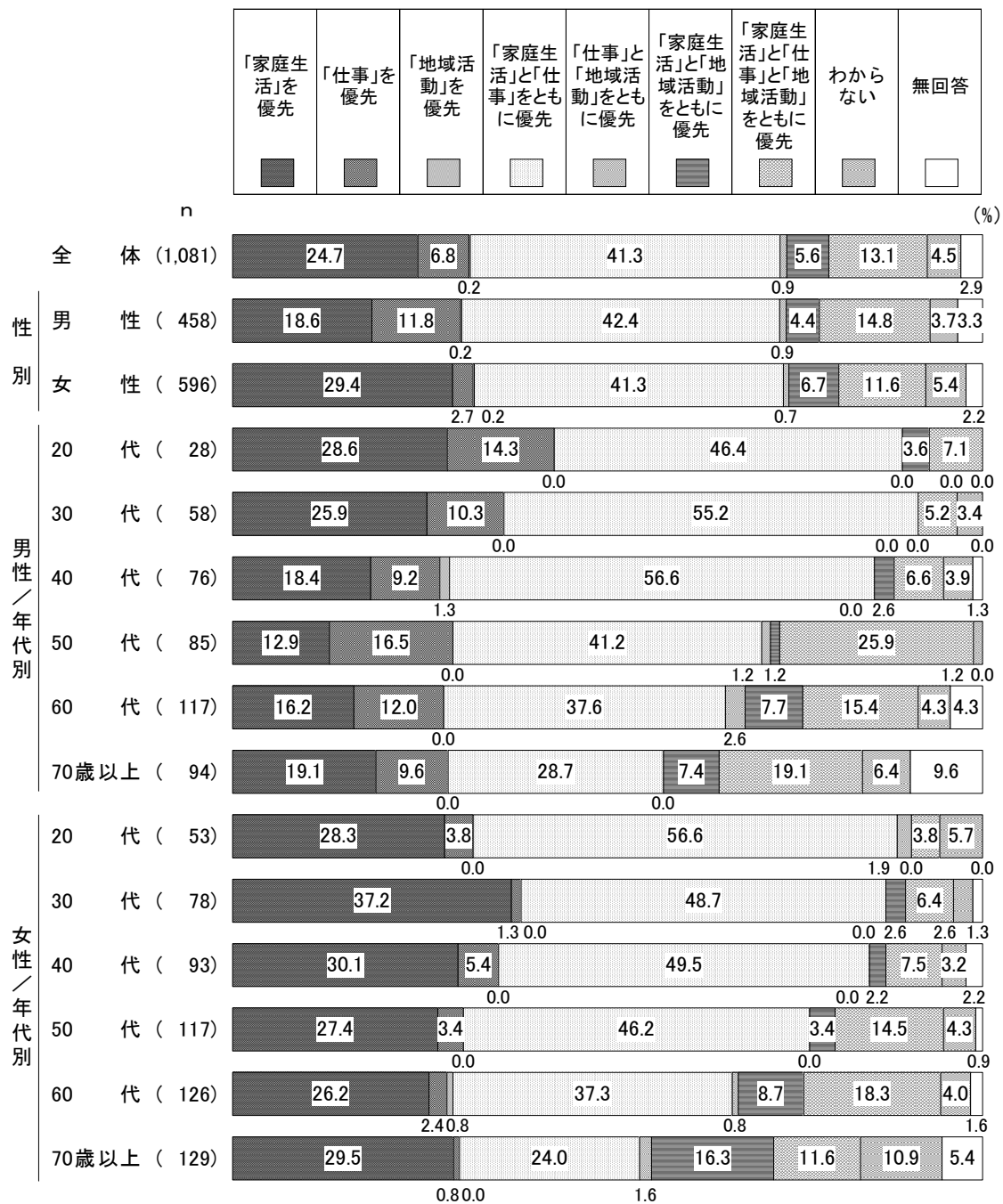


※内閣府調査は、「男女共同参画社会に関する世論調査」（平成 24 年 10 月）

性別でみると、『家庭生活』を優先は女性（29.4%）が男性（18.6%）より10.8ポイント高くなっている。一方、『仕事』を優先は男性（11.8%）が女性（2.7%）より9.1ポイント高くなっている。

性・年代別でみると、『家庭生活』と『仕事』をともに優先は男性の30代（55.2%）と40代（56.6%）、女性20代（56.6%）で高くなっている。また、『家庭生活』を優先は女性30代（37.2%）で高く、『家庭生活』と『仕事』と『地域活動』をともに優先は男性50代（25.9%）で高くなっている。（図6-4）

図6-4 「家庭生活」、「仕事」、「地域活動」の希望の優先度（性・年代別）

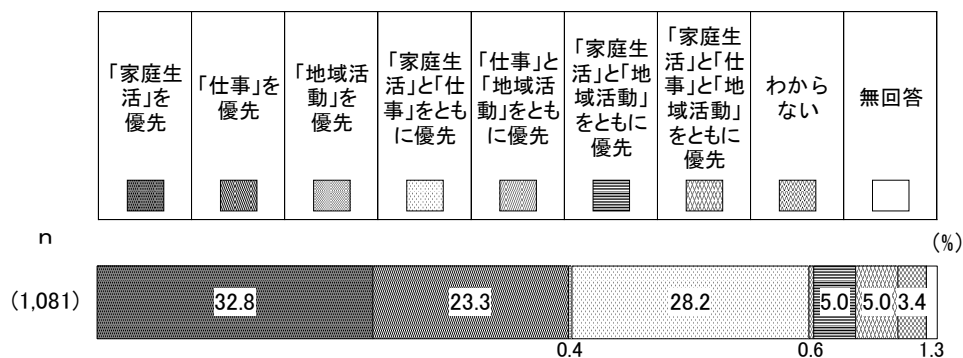


(2) 「家庭生活」、「仕事」、「地域活動」について現実に優先しているもの

◇ 「『家庭生活』を優先」が32.8%

問 16. あなたの日常生活の中で、「家庭生活」、「仕事」、「地域活動」について、現実に優先しているものを選んでください。(1つだけに○)

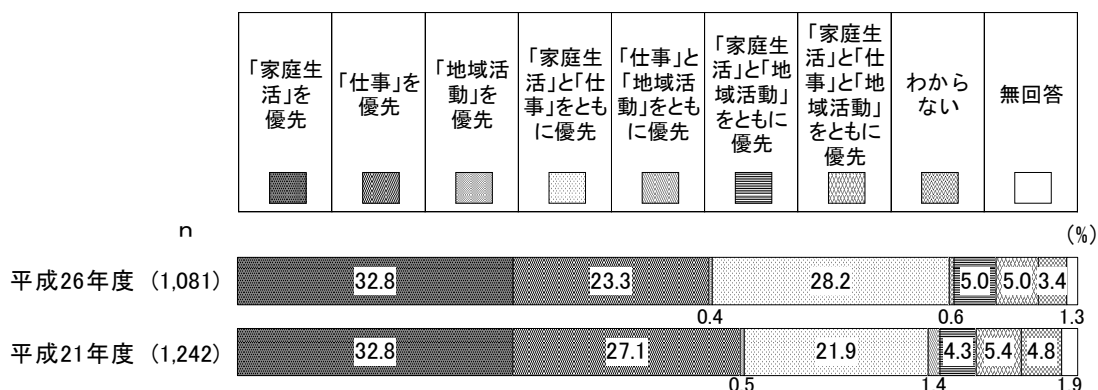
図 6-5



「家庭生活」、「仕事」、「地域活動」について現実に優先しているものを聞いたところ、「『家庭生活』を優先」が32.8%で最も高く、次いで、「『家庭生活』と『仕事』をともに優先」(28.2%)、「『仕事』を優先」(23.3%)などの順となっている。(図6-5)

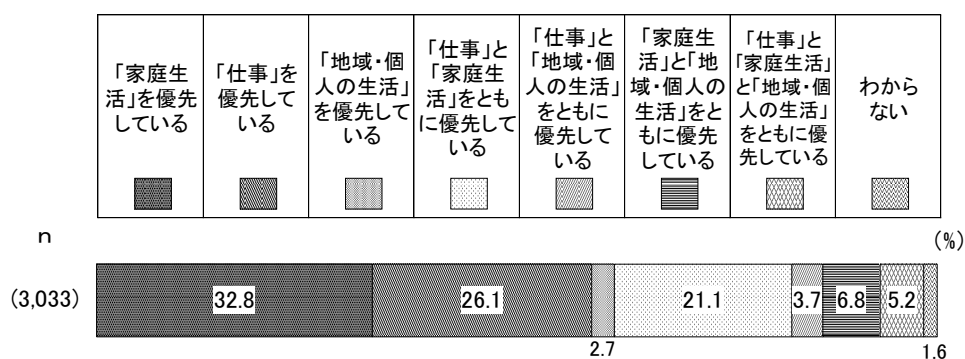
経年比較をみると、『家庭生活』と『仕事』をともに優先は平成21年度調査より6.3ポイント増加、『仕事』を優先は平成21年度調査より3.8ポイント減少している。(図6-6)

図6-6 「家庭生活」、「仕事」、「地域活動」について現実に優先しているもの(経年比較)



内閣府調査との比較は、選択肢が異なるため内閣府調査の結果を参考までに図示する。(図6-7)

図6-7 「家庭生活」、「仕事」、「地域活動」について現実に優先しているもの(内閣府調査との比較)



※内閣府調査は、「男女共同参画社会に関する世論調査」(平成24年10月)

性別でみると、『家庭生活』を優先は女性（40.9%）が男性（23.4%）より17.5ポイント高くなっている。一方、『仕事』を優先は男性（31.9%）が女性（15.6%）より16.3ポイント高くなっている。

性・年代別でみると、『家庭生活』を優先は女性の30代（51.3%）と70歳以上（51.9%）で高くなっている。また、『仕事』を優先は男性30代（51.7%）で高く、『家庭生活』と『仕事』をともに優先は男性40代（39.5%）で高くなっている。（図6-8）

図6-8 「家庭生活」、「仕事」、「地域活動」について現実に優先しているもの（性・年代別）

